

第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム
5th International collaboration forum of human gene therapy for genetic disease

開催のご案内

平成26年12月

今回、第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラムを開催する運びとなりましたので皆様にお知らせをいたします。

本フォーラムは、難治性の遺伝病に苦しむ子ども達へ遺伝子治療という新しい治療法を届けるために、国内国外の医師・研究者のみならず患者様やご家族ならびに関連企業が一丸となって推進を図ることを目的として平成23年度より開催いたしております。この数年間の遺伝子治療に関する進歩は著しく、特に欧米では難治性遺伝性疾患に対して多くの遺伝子治療が行われ、有効な治療成績を上げています。例えばフランス、イタリアで先駆的に行われた先天性の免疫不全症や遺伝性神経疾患に対する遺伝子治療、米国で行われた血友病に対する遺伝子治療の成功は注目に値するものです。そしてついに2012年にはリポ蛋白質リパーゼ欠損症に対する遺伝子治療薬 Glybera が初の遺伝子治療薬として欧州で承認されました。

世界ではこのように遺伝子治療が着実に遺伝病に対する治療薬となりつつある状況です。一方、我が国でも、遺伝性の免疫不全症のひとつである慢性肉芽腫症に対する遺伝子治療が平成26年に実施されました。遺伝病に対する遺伝子治療としては重症複合型免疫不全症の一病型であるアデノシンデアミナーゼ(ADA)欠損症に次ぐチャレンジであります。このような状況の中で遺伝子治療における国際的連携が以前にもまして必要になって来ております。特に、世界的には、遺伝子治療は臨床研究の段階からすでに治験として行われる状況になってきており、わが国の遺伝病の患者様にも最先端の臨床研究に参加し最新の治療を受けることができる環境を整備する必要があります。

このような背景で今回のフォーラムを企画いたしました。第一部は遺伝病に対する遺伝子治療の最新知見に関する発表を国内外の著名な研究者が行います。海外からは Eric He 博士 (BioMarin Pharmaceutical)、Asif Paker 博士 (bluebirdbio)ならびに Federico Mingozzi 博士 (Genethon) の参加を仰ぎます。第2部は平成26年11月に改正された薬事法に着目し、遺伝子治療の推進にどのように影響するのかについてパネルディスカッション形式で検討いたします。第3部は慢性肉芽腫症に対する遺伝子治療がわが国で行われたことを記念し、原発性免疫不全症に関する最新知見をご発表いただきます。

本フォーラムに関し医師・研究者のみならず、患者様や創薬等に関わる企業の方々など関係者各位にご参加頂きたく、ここにご案内申し上げる次第です。

第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム 担当幹事 藤本純一郎

記

開催日：平成27年1月15日(木) 13:00 - 18:30

会場：東京慈恵会医科大学 大学一号館講堂 〒105-8461 東京都港区新橋3-25-8

ご参加お申し込みはホームページ (<http://www.humangenetherapyforgenicdisease.com/>) よりお願いいたします。申込書をダウンロードし必要事項をご記入のうえ下記番号にFAXをお願いいたします。またWEB登録も可能です。なお、患者様ならびにご家族の方は参加費は必要ございません。

問い合わせ先：

第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム 運営事務局
〒160-0023 東京都新宿区西新宿5-3-2 宝永西新宿ビル901
株式会社 ASSI-PRO (アシプロ) 内

Tel : 03-6279-3039 FAX : 03-6276-6645 Mail : 5thgtf@assi-pro.co.jp

第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム

主催
共催
後援

国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム実行委員会
NPO法人日本ライソゾーム病研究センター
厚生労働省「難治性疾患等克服研究事業（代表：衛藤義勝）」
厚生労働省「成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（代表：小野寺雅史）」
厚生労働省「難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業（代表：奥山虎之）」
日本遺伝子治療学会
日本先天代謝異常学会
食細胞機能異常症研究会

ホームページ

<http://www.humangenetherapyforgeneticdisease.com/>

国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム実行委員会

実行委員長
委員

衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学遺伝病研究講座）
小野寺雅史（国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部）
大橋 十也（東京慈恵会医科大学 遺伝子治療研究部）
奥山 虎之（国立成育医療研究センター ライソゾーム病センター）
藤本 純一郎（国立成育医療研究センター）
島田 隆（日本医科大学 分子遺伝学）
小澤 敬也（東京大学医科学研究所 病院）
辻 省次（東京大学 神経内科学）
金田 安史（大阪大学大学院 医学系研究科遺伝子治療学）
玉井 克人（大阪大学大学院 医学系研究科再生誘導医学寄附講座）
遠藤 文夫（熊本大学大学院 生命科学研究部）
池田 康博（九州大学 病院眼科）
武田 伸一（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 遺伝子疾患治療研究部）
大津 真（東京大学 医科学研究所幹細胞治療研究センター ステムセルバンク）
岡田 尚巳（日本医科大学 分子遺伝学）
久米 晃啓（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）
河合 利尚（国立成育医療研究センター 成育遺伝研究部 遺伝子診断治療研究室）
小林 博司（東京慈恵会医科大学 DNA 医科学研究センター遺伝子治療研究部）